

Ⅲ. 水車のありし姿

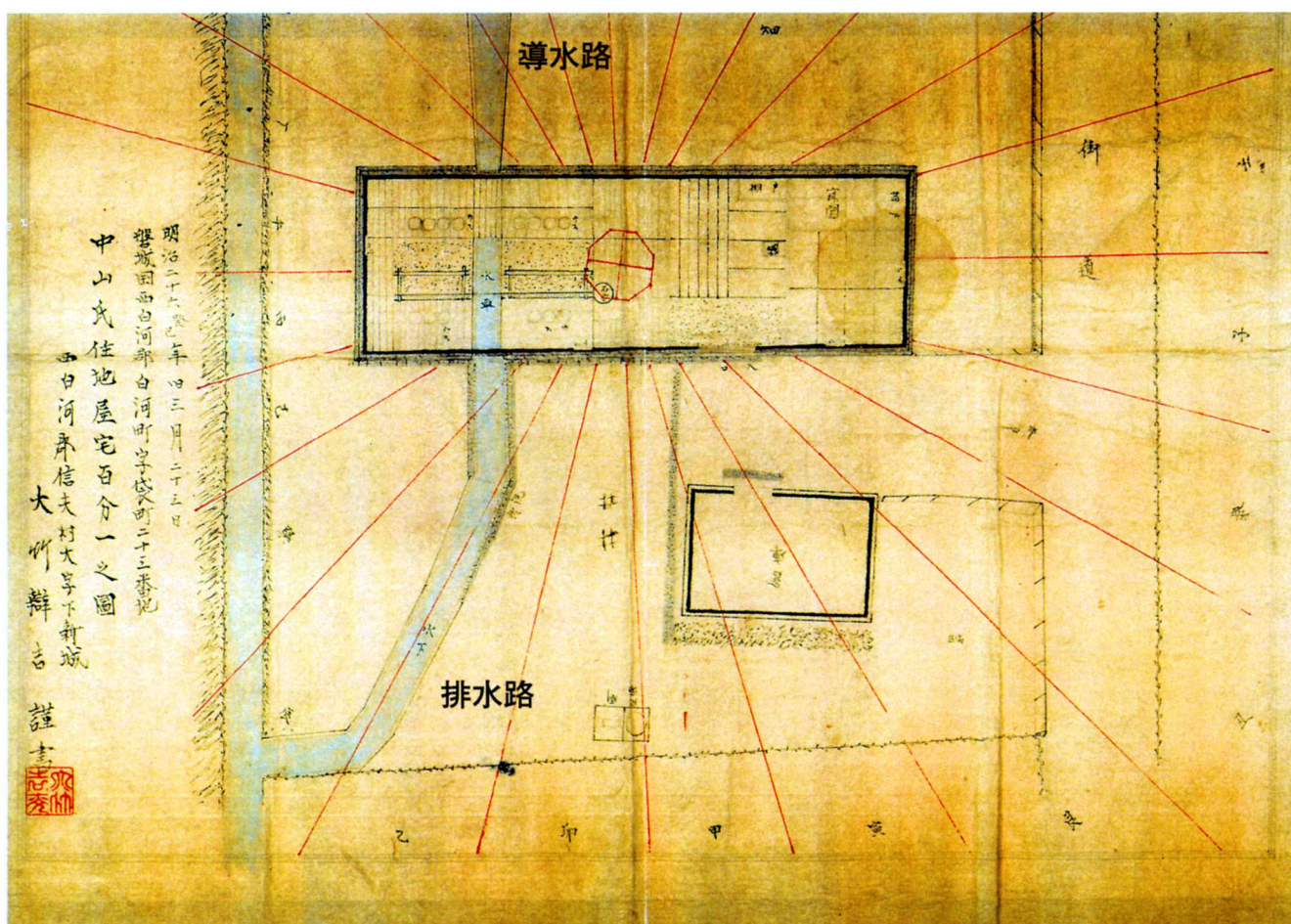
「水車のある風景」では、谷津田川に点々としていた水車をイメージできたでしょうか。では次に、水車はどんな姿をしていたのでしょうか。また水車小屋の中には何があったのでしょうか。

1. 描かれた姿

谷津田川にあった水車の明治時代の絵図面です。以下は調査で見つかった水車跡とも共通し、谷津田川の水車の特徴を見ることができます。

水車には谷津田川の本流から水を引く水路が作られていました。調査では水車小屋の上流側を**導水路**（どうすいろ）、下流側を**排水路**（はいすいろ）と呼んでいます。水車小屋の手前で水の量を調節する**放水路**（ほうすいろ）が設けられる場合もあります。

水車小屋は水路をまたいで建てられ、**水輪**（すいりん）は屋内で回っていました。水輪を回す水の勢いを高めるために、導水路は序々に幅が狭められています。水輪の下の部分には特に急な勾配の**樋**（とい）などが作られ、水輪の下半に水をかけて回す、「下がけ式」の水車でした。



水車平面図 住所に袋町と書かれ、新橋の上流側にあった松葉屋のものであると考えられます。